



おんこ作らせてみて困る。



かきつけてる。



ク
ン
ホ

ミ
ミ
ミ
ミ
ミ
ミ

ミ
ミ
ミ
ミ
ミ
ミ

芳乃かー

はいー
ご機嫌うるわしくー

今日も芳乃は
見ごろー食べごろー
お年ごろー
なのでしてー

近頃、芳乃が何かと顔を
見せてくれる

それはP冥利に
尽きることだが

世継ぎだとか
今が子を宿す
その時だとか

ともかく

ウチにはあまり
来ないほうがいい

それが
当たり前かのように
話を振ってくるので
扱いに困ってる

はてー？

なんだそれはし

早苗さん
あたりに変なこと
吹き込まれたか？

いえー
食べごろなのは
本当でしてー

もう芳乃は人気アイドル
なんだからな

どこで誰が
見てるか分からな

ほー

そーなーたー♪

って、
話きいてる!?

まだ先の話だと
考えていた

ぴん

境内で声をかけられ
お祓いをしてくれた
少女――

絆

その容姿と、
何か持った
素質に惹かれ

声をかけた

芳乃は、今日の
この縁を予感し

故郷を離れ
この地まで来たという

皆を幸せに導き
生涯を共に
歩んで行ける

おれ
自分と
出会うために

そなたでしたかー

舞台の上に立つ彼女に
惹かれていくのも
そう時間は
かからなかった

芳乃も
そうなることが
最初から
わかっていたかのよう

私も
そなたのことが

プロデューサー
としてではなく

特別な存在として
受け入れてくれた

ムクム

アイドルとして

いずれ訪れる
引退の時には正式に

……の
予定だったのだが

よ、芳乃？

こうしていると、とても
心が安らぎますー

やはりそなたは
わたくしのー

芳乃…

キョウ
キョウ

部屋に
入れてしまったー

芳乃…？

と、とりあえず
中に！！

あーれー
でしてし

ビッパ
カチャッ



やっと

こうして
そなたのお側に

この日を
待っておりましたー

生涯を
添い遂げ

共に高みを
目指しましょうぞー



はいー
芳乃はそのために
鹿児島より
参りましてー

……
添い遂げ…ね

いいいや
早すぎないか…?
イロイロと

ばば様の
ばば様は
13の歳には

時代が違うでしょ!!

ばば様からも
ひ孫はまだかとー

それにー



今日は子袋の

具合も
よろしいゆえー



覚悟はしていた

ただ
まだ先の話だと
考えないようにしていた

決断が
今になっただけ――

そなたの
子種を
いただきたく……

想いを伝える

軽い接吻

芳乃の
憂いを帯びた
表情と

汗と
混ざった
ほのかな媚香が
頭を麻痺させていく

……芳乃

担当
プロデューサー
としての

最後の抵抗

ほんとに……
いいんだな

わたしは
私は

探すことが
得意なのでしてー

そして

そなたを
見つけましたー

そなたとならばー……

芳乃からの接吻

最後の
理性を飛ばすのは
十分だった

すぐに下半身は
熱く大きく膨らみ

さっきまでとは違う
欲にまかせ
舌を絡ませ合う接吻

ズボン介して
芳乃の子宮付近に
陰茎を擦りつける

腔内を弄るように
芳乃の甘い
唾液を吸う



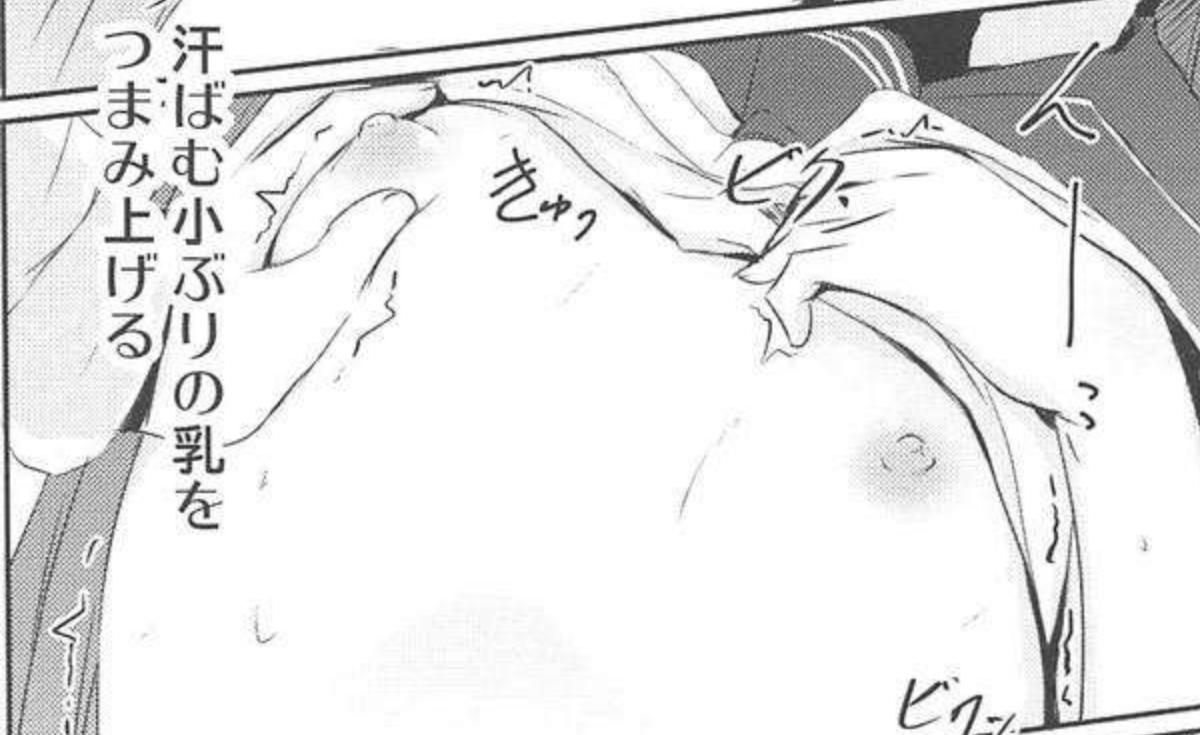


そのまま服を
めくり上げ

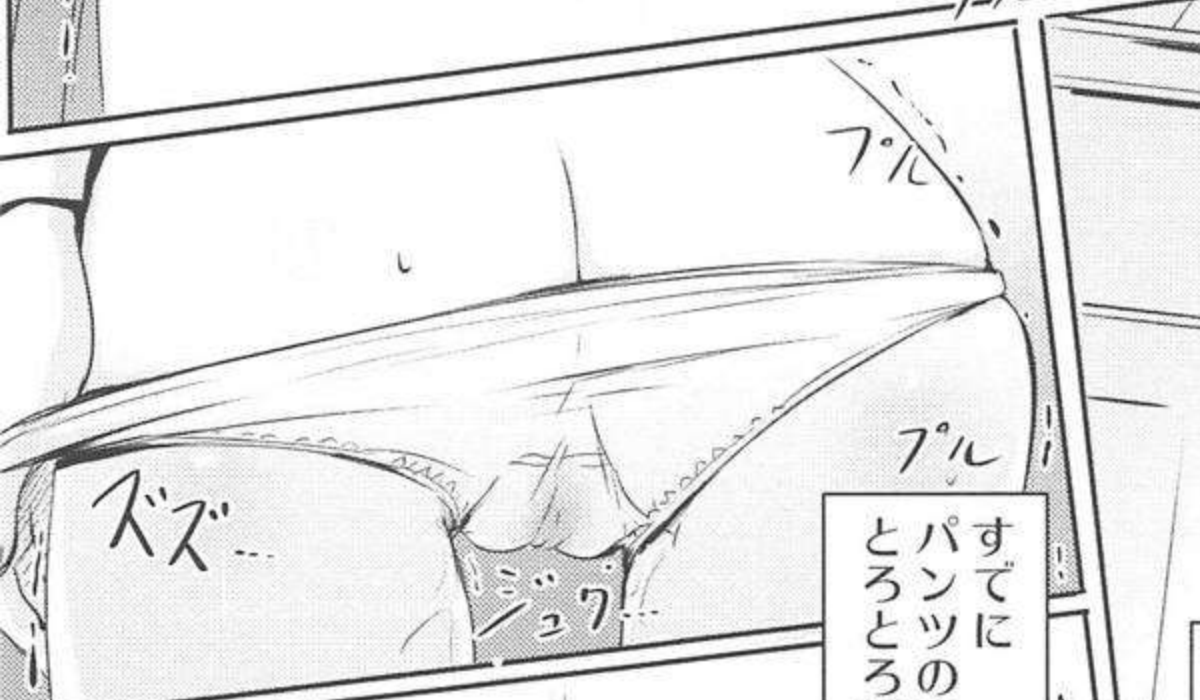


それが心地
良いのか

芳乃も合わせて
腰を押しつけてくる



汗ばむ小ぶりの乳を
つまみ上げる



すでに
パンツの中も
とろとろ状態で



接吻を続けたまま
スカートを下ろす

下方から
芳乃の淫液の香りが
立ち昇ってくる



床に
染み落ちていた



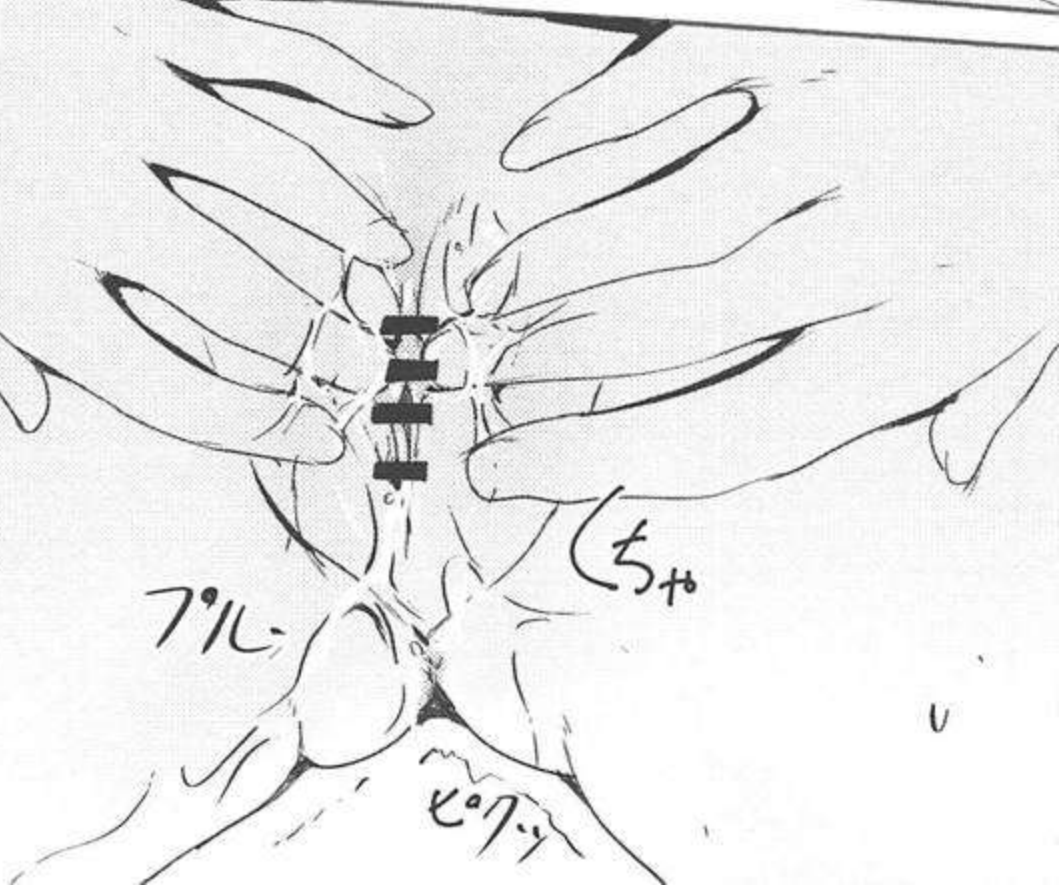
痛いほど
膨張している
陰茎を外に解放する

壁に
押さえつけるように
キスを続け

そのまま前から
芳乃の陰唇部に
手を伸ばす

膣口を
押し広げると
同時に

膣内に
蓄えられた愛液が
多量に垂れ落ちてくる



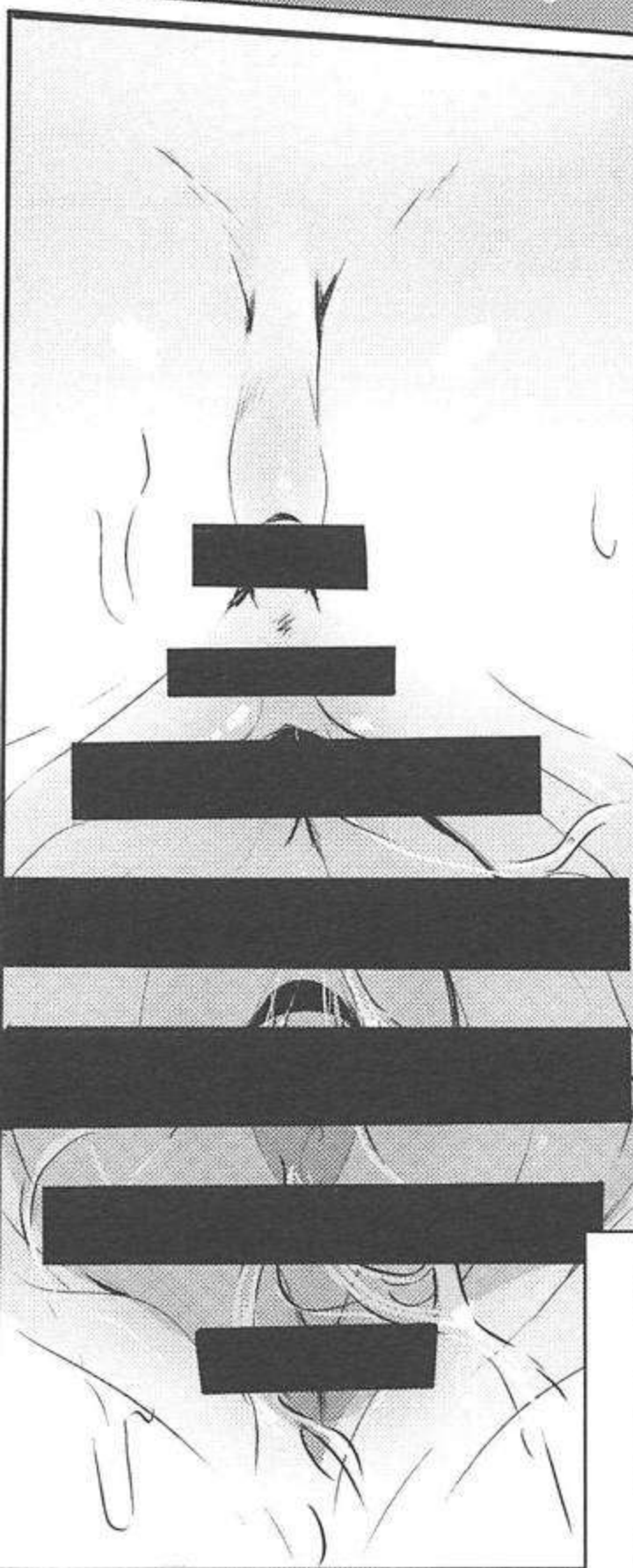
垂れ落ちた
芳乃の愛液は

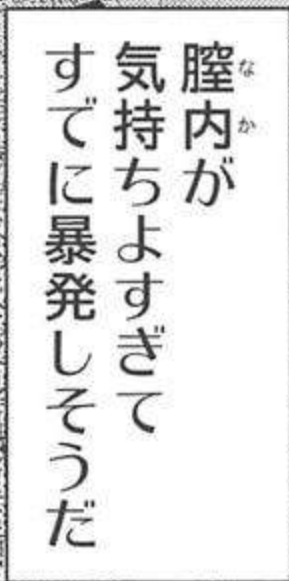
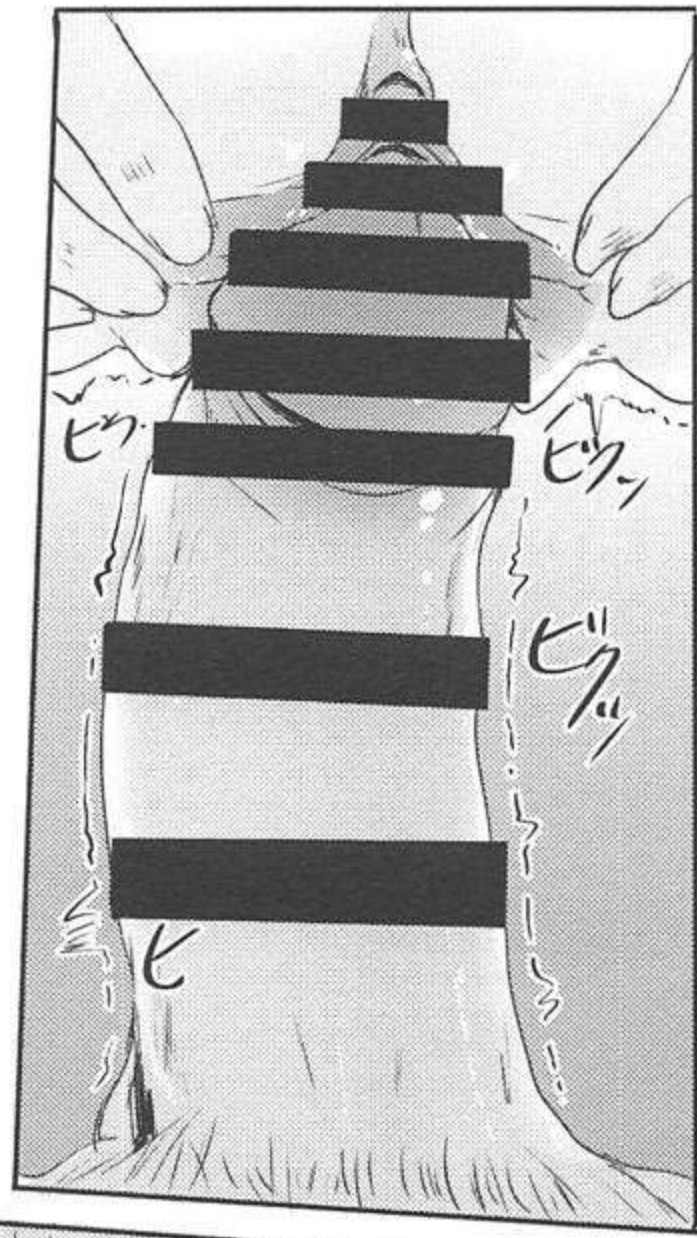
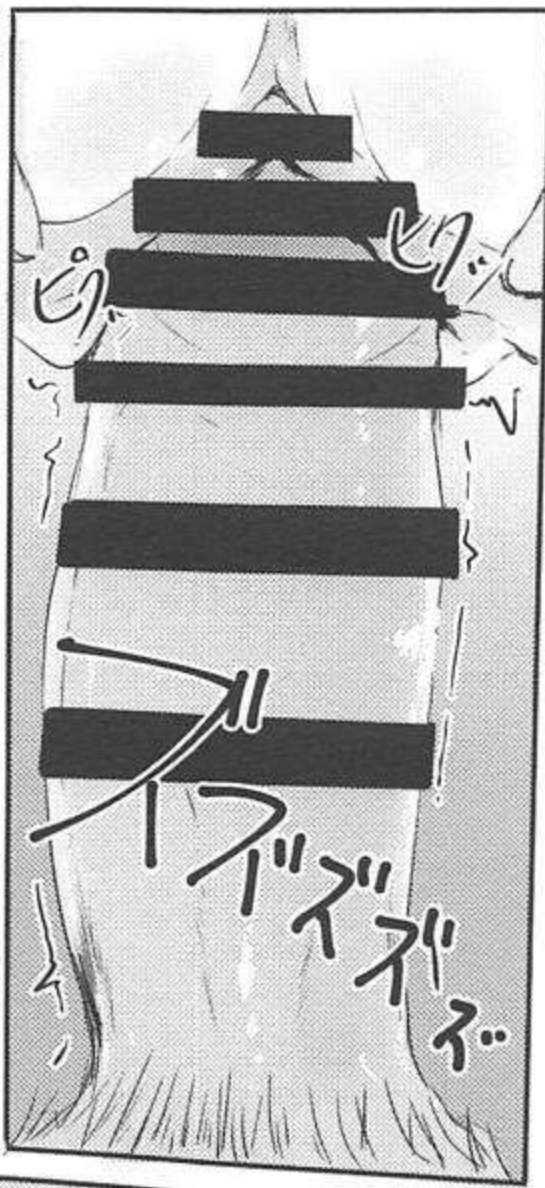
ぶ
ろ
び

陰茎をどろどろに
濡らしてこへ

そのまま
芳乃の膣口へ
龟头を密着させ

押し広げていく







強く媚香放つ場所をめぐりあげ



陰茎を挿入され

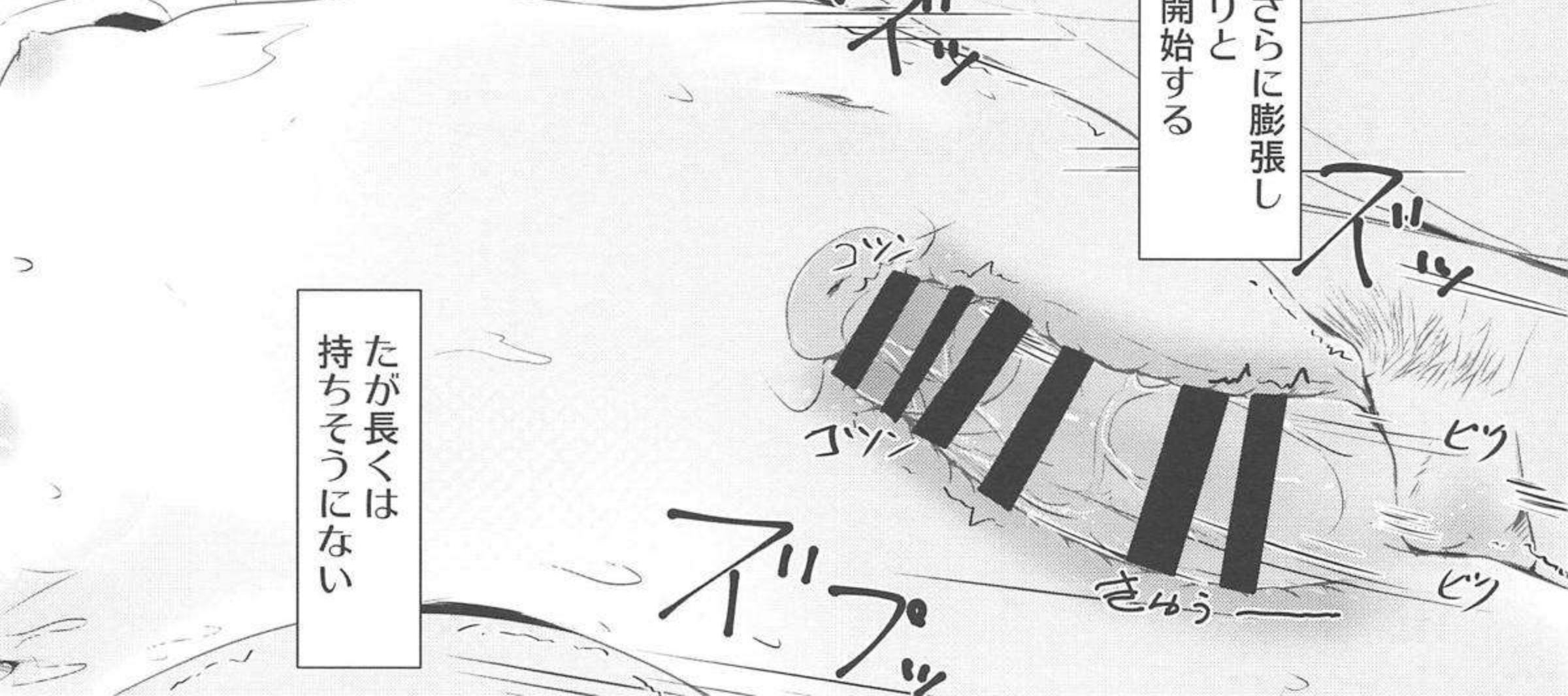
性的興奮を感じている芳乃の身体から



顔をうずめさらなる興奮を貪る



陰茎はさらに膨張しゆっくりと抽挿を開始する



だが長くは持ちそうにない

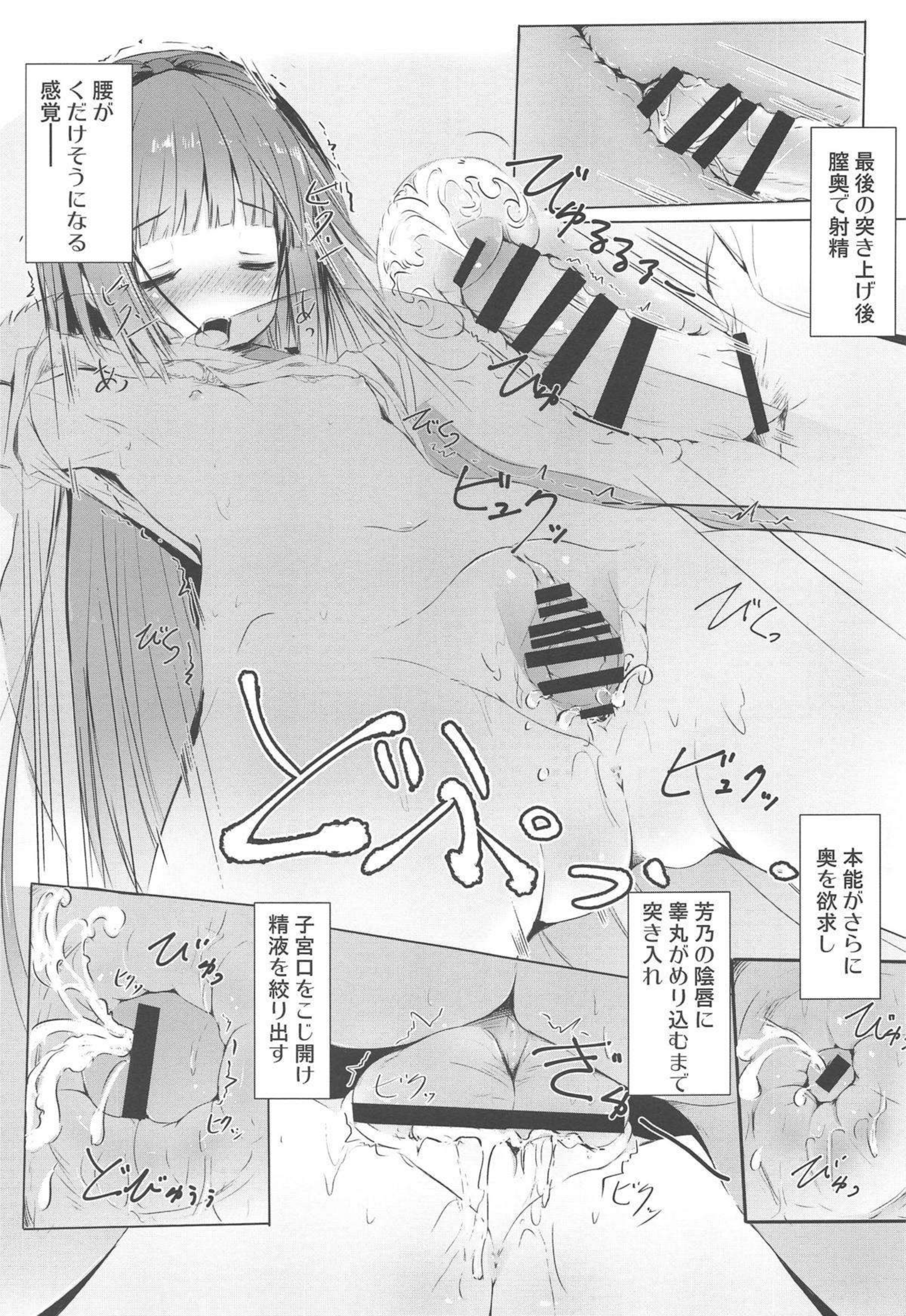
最後の突き上げ後
膣奥で射精

腰が
くだけそうになる
感覚――

本能がさらに
奥を欲求し

芳乃の陰唇に
睾丸がめり込むまで
突き入れ

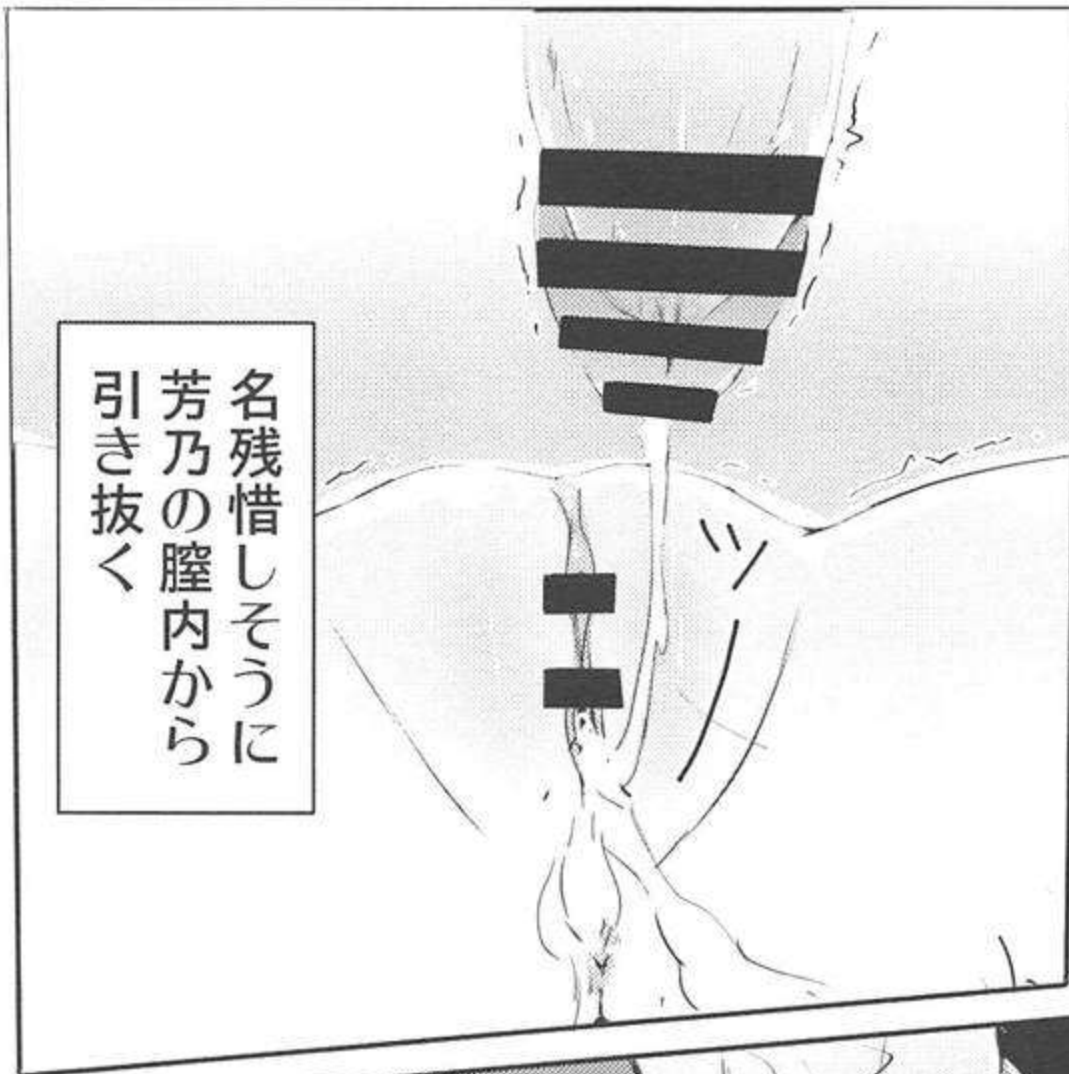
子宮口をこじ開け
精液を絞り出す



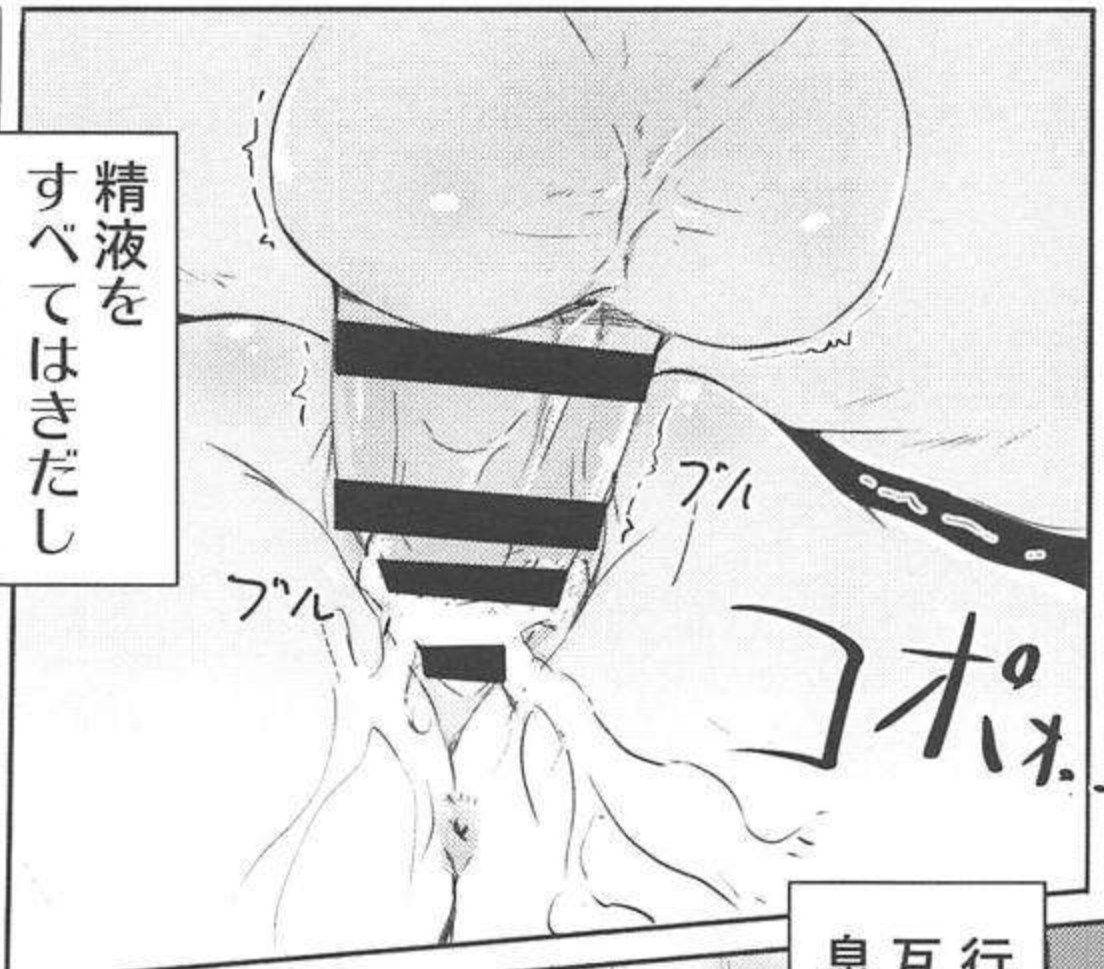


はー
はー
そなたあ…

は…
激し…



名残惜しそうに
芳乃の膣内から
引き抜く



精液を
すべてはきだし

コホネ

行為のあと
互いの荒い
息づかいだけが響き



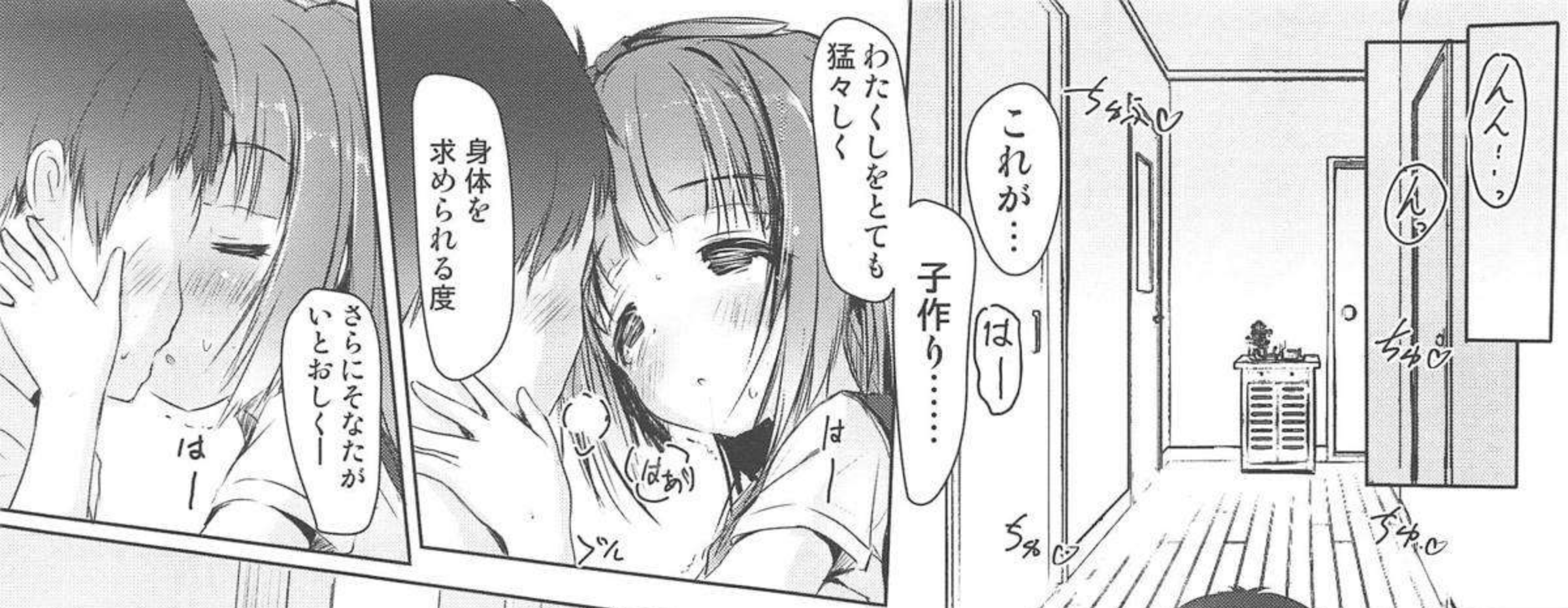
言葉もなく
余韻に浸っていた

はあ

はあ

は
はあ





んん！

んん

これが…

子作り……

わたくしをととも
猛々しく

身体を
求められる度

さらにそなたが
いとおしくー

はー

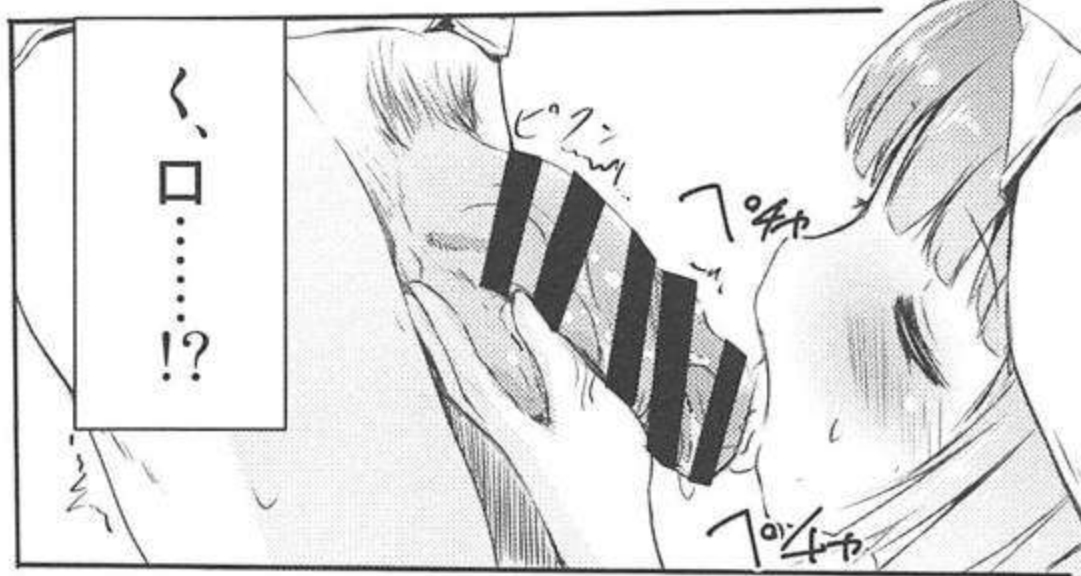


そなたー



私と交ざり
汚れてますゆえ

わたしはが浄め
いたしますー



く、口……!?



待って
それは……っ



よ、
芳乃……し

お任せ
くださいますせー……



!!



そんなこと
されたら



そなた……
急に大きくなされては

お清めが
できませぬー



その…ソレは
そういうもので
……

ほー…そうで
ありましたかー

……ならば
しかひやありまひえぬー

あ…
まだ
やるの

んっ
んっ
んっ
んっ
んっ
んっ
んっ
んっ



そ、それ
以上は

よ…
芳乃…

で、出る
——



芳乃の
口に——



ガクガク

ブル



あー
あー
あー
あー
あー
あー

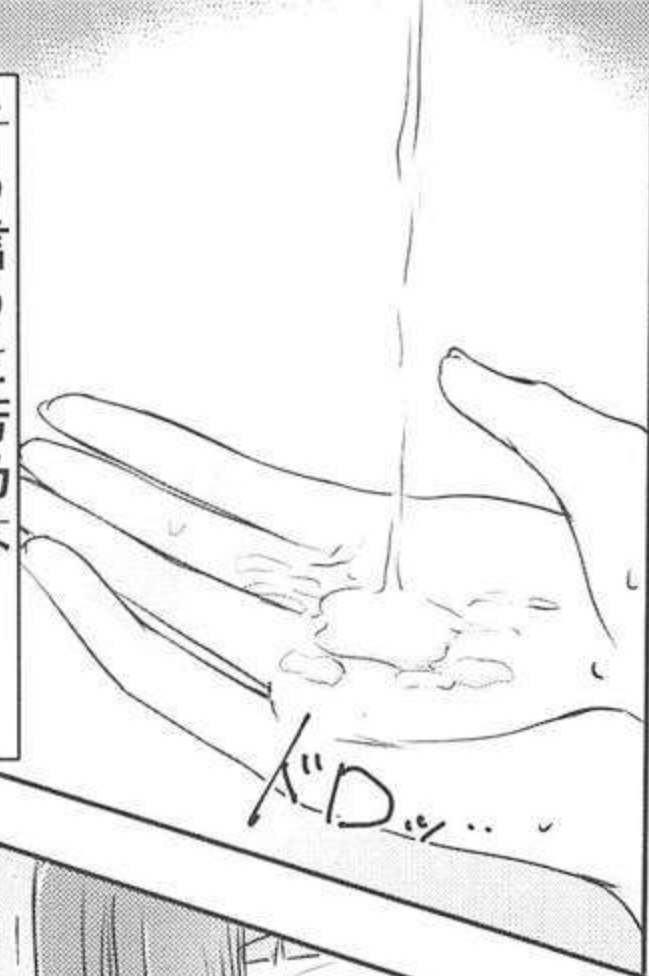


はー
はー
そなたー…



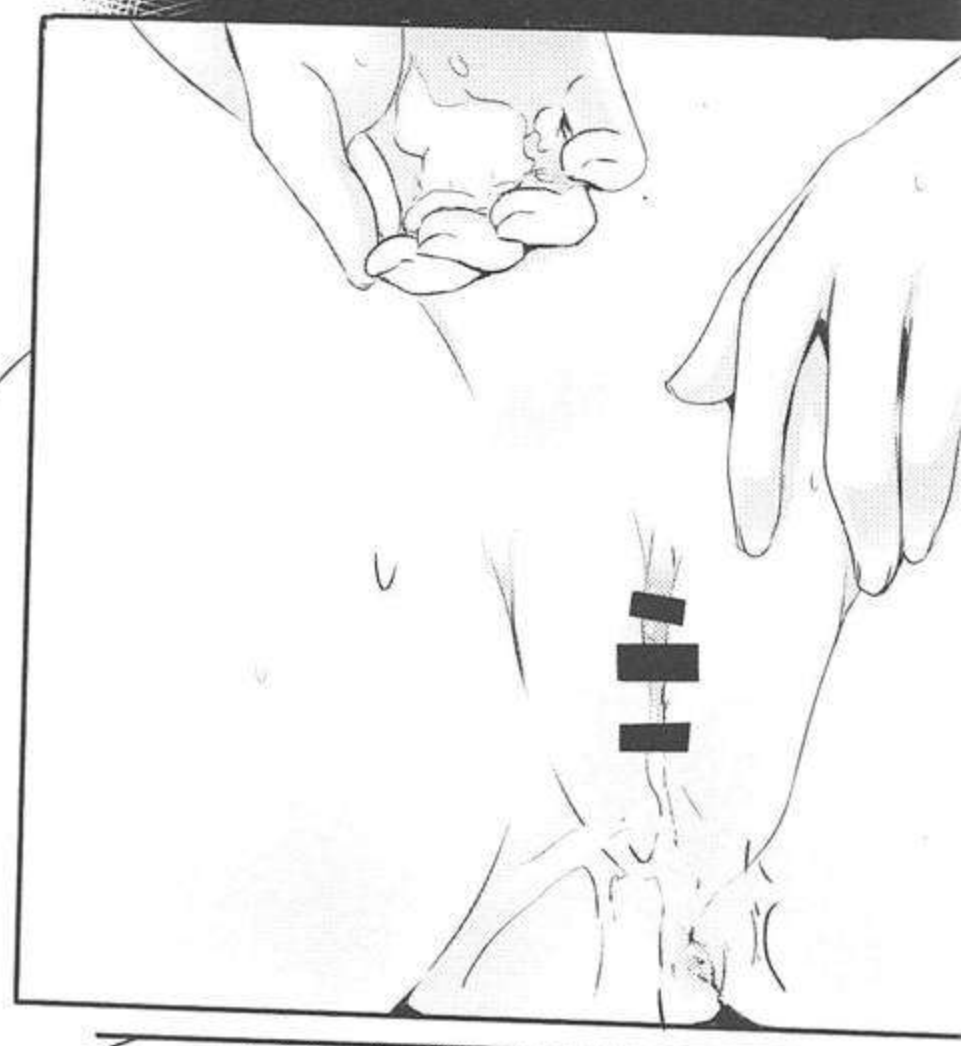
子種は
口の中に出すものでは
ありませぬー…

ぶん



んんん…

そう言々と芳乃は
口内に残った精液を
愛おしそうに手のひらへ



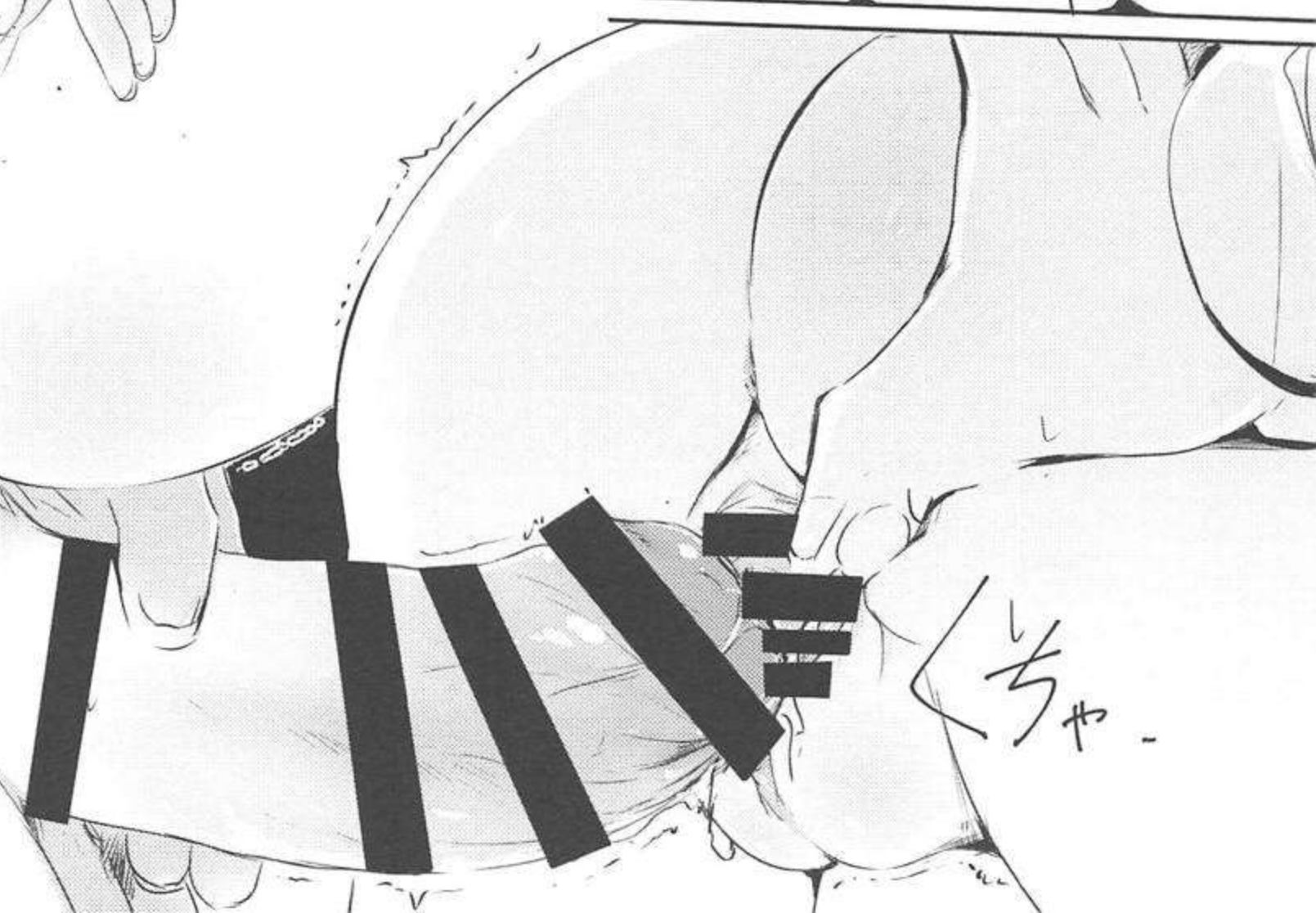
陰唇をひろげ、膣内に
押し込む仕草に



劣情が湧き上がり
下半身が勃起くなり

んんん

芳乃の膣に
突き入れた



んんん

それから何回
芳乃に膣出ししたか
分からない

覚えているのは
芳乃の膣内は
すごく具合が良く

求め、
求められるままに
精液を注ぎ続けたこと

膣内に絞り出す

そのまま
芳乃の身体を
床に押さえつけ

背後から





ただただ
身体を求めて

膣内へ注ぐ



眠りに落ちるまで
行為は続いた



…薄暗い

夜…?

ちよっと
寝てたのか

お目覚めに
なれましてー?

…先に
起きてたのか?

はいー
寝顔を見て
おりましたー

…その
すまない

はてー?

ちよっと
やりすぎたし
身体は
大丈夫か?

すべて私が
望んだこと

そなたが気に病む
必要はありませぬ

それよりも

ねーねー

今日は長い一日に
なりそうだ

芳乃…
///

—え?

ホッホッ

……



芳乃が子作れがんできて困る。

発行 みるこみ
発行日 2018/12/31
連絡先 mirukomi.primil@gmail.com
twitter@primil

印刷 ねこのしっぽ

